

健診検査センターニュース

No.554 号

運営委員会より

4月21日（木）平成28年度第1回の運営委員会を開催いたしました。

冒頭、本間所長より、熊本の震災が長引いている。JMAT、DMATが現地入りしているが函館市医師会としても支援・バックアップをしていきたいとの挨拶がありました。

1. 特定健診3月の実施件数は、下記のとおりでした。

	3月受診数（前年比）	累計（前年比）	函館市国保受診率 3月現在 27.17% / 目標 30.0%
函館市国保	2,781人（△24人 99.1%）	14,787人（△278人 98.2%）	
後期高齢者	1,041人（54人 105.5%）	6,333人（458人 107.8%）	
その他	380人（35人 110.1%）	2,517人（112人 104.7%）	
合計	4,202人（65人 101.6%）	23,637人（292人 101.3%）	

実施機関：103施設／登録機関 105

- 27年度累計は、国保で278人の減となり、目標の受診率30%には届きませんでした。一方、後期高齢者の受診者は458人の増と大きく伸びました。
- 28年度「函館市国保・後期高齢者・生活保護受給者」に関する「特定健康診査実施医療機関の登録」は、4月1日現在で101医療機関となりました。
- 4月25日付で「28年度特定健康診査等の実施要項」ならびに「協会けんぽの窓口負担」について登録機関宛ご案内いたしました。ご不明の点がございましたらご連絡の程お願い申し上げます。
- 特定健診に係る「血圧の判定基準値」については今年度より、2回測定値の平均値を用いることといたしましたので、ご留意願います。

2. 28年3月の健診検査事業収入は、下記のとおりでした。

	3月（前年同月比）	27年度累計（前年比）
一般検査収入	103.7 %	103.6 %
健診収入	89.2 %	102.7 %
合計	96.3 %	103.2 %

3. その他

職員の退職2名、採用2名、参事職員の契約更新1名、臨時職員の採用1名、臨時職員並びにパート職員の雇用更新についての報告がありました。

《 ちょっと一言 》

医師会健診検査センター運営委員広報担当の小葉松です。また大地震が起こってしまいました。この国で暮らす以上、天災は避けて通れないものなのではないでしょうか、想定外の天災が増えていることは間違いないようです。地震だけでなく台風や豪雨豪雪も含め、災害復旧に重要な役割を果たすのが、建設業です。建設業界も世の流れで、地方の小さな会社が淘汰され、集約される傾向にあるようです。公共工事も競争入札では、効率化が可能な大きな会社が落札してしまいます。規制緩和と効率化では、弱小会社は淘汰されていくのですが、地域の建設業が減ってしまったところに大きな天災が起きると、地元で供給できる戦力が少なく、地域外からの援助が来るまで、復旧が遅れることは必須でしょう。もし首都直下型地震が起きれば、人口超密集地ですから、地元には戦力が多くても到底足りるはずもなく、復旧を助けるのは、無傷の地方の建設業です。東京一極集中で地方が衰退してしまうと、首都に何か起きた時に国全体が復活困難になる可能性は誰もが危惧していることだと思います。そもそも東京は人も金も集まり、莫大な投資によって利便性が高くなったために一人勝ちしているだけなのです。

災害大国日本にとっては、この先、どのような災害がどこで起きても、迅速に災害から復旧し、国が立ち行かなくなるようなセイフティネットの構築が必須だと思います。そのためにも、皆さんにできることは、地元の建設業を守る→多少割高でも地元の建設会社を利用することでしょうし、勿論建設業界の人々には、災害時に地元を守る、という強い使命感を持って仕事をしてもらうことだと思います。

(文責 小葉松洋子)

検査内容変更のお知らせ

平素より当センターをご利用頂きまして、誠にありがとうございます。
この度、下記の検査項目内容を変更させて頂くことになりましたので、お知らせ致します。
何卒、ご了承賜りますようお願い申し上げます。

変更日：平成28年5月9日（月）より変更

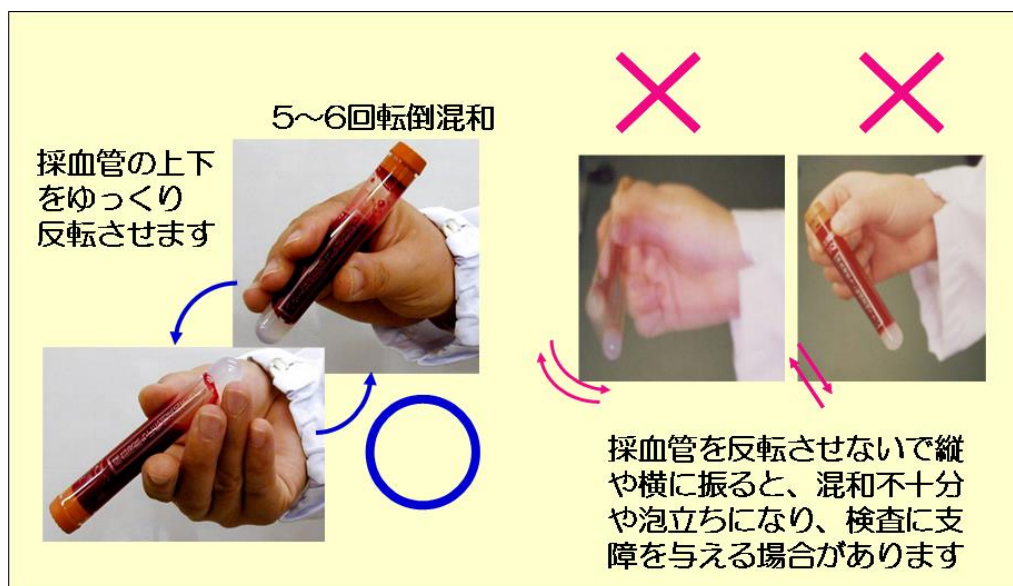
変更項目：1733 HBs抗原（CLEIA）

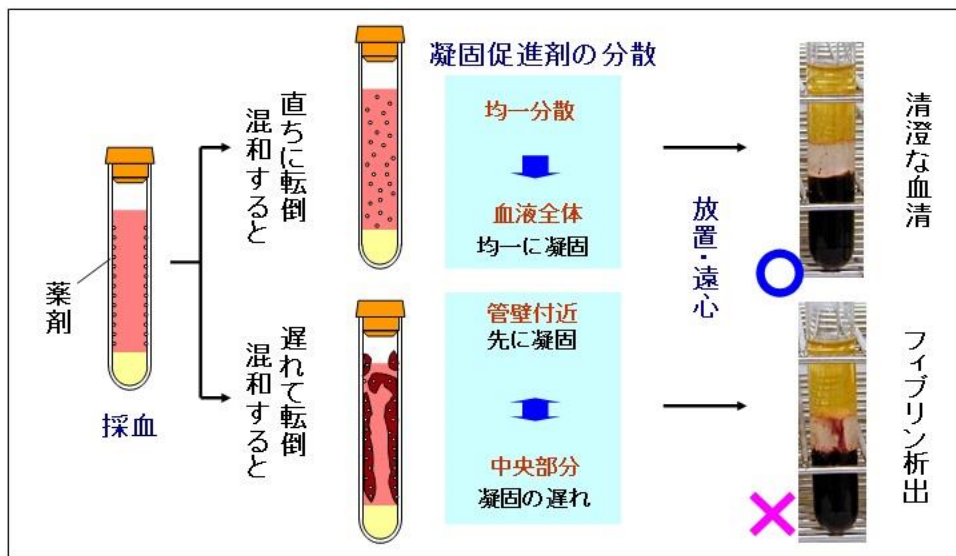
	（新）	（旧）
検査方法	CLEIA	CLIA
基準値	0.005未満 IU/mL	0.05未満 IU/mL
所要日数	2日	
実施料 （判断料）	88点 免疫学的検査判断料 144点	
備考	従来法より10倍感度の高い試薬への変更 以下の注意事項参照	

HBs抗原定量の高感度化に伴い、マイクロフィブリンによる偽陽性を防止する為、採血に際して以下の注意事項に気をつけて下さい。

すべての採血管に言えることですが、採血後SST（生化学容器）を5～6回転倒混和をすることにより、SST内壁についている凝固促進剤が均一に採血をした血液と混ざりあいます。

▼転倒混和のイメージ





引用先：富士レビオ株式会社 社内資料より

参考データ

転倒混和なし	転倒混和あり
偽陽性 5/45 (11.1%)	0/45 (0%)

引用先：当センター内においての調査結果

偽陽性確認については、陽性 5 件において再遠心 3000rpm 10 分後、再測定を行い陰性化したことを確認し、マイクロフィブリンによる影響が示唆されました。

公益社団法人函館市医師会 函館市医師会健診検査センター
TEL 0138-57-6571・FAX 0138-57-6580
E-mail : info@hma-labo.jp